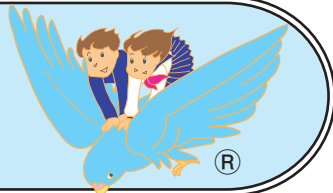


君とつばさ



令和7年10月10日
発行・公益財団法人 交通遺児育英会
〒102-0093 東京都千代田区平河町2-6-1
(電話) 03(3556)1789
(HP) <https://www.kotsuiji.com>

©交通遺児育英会

「高奨生と保護者のつどい」に75家族183人

アンケート「参加してよかった」9割超

交通遺児育英会は8月16、17日、都内で「高校奨学生（高奨生）と保護者のつどい」を開いた。初日は保護者懇談会や高奨生を対象としたグループワークゲーム（GWG）、2日目は心塾東京寮（東京都日野市）の見学会が行われ、全国から集まった参加者は日ごろの思いを語り合って交流を深めた。

「つどい」は交通遺児育英会設立翌年の1970（昭和45）年に始まった伝統行事。奨学生同士の「仲間づくり」を主な目的に掲げる一方、99（平成11）年からは保護者も参加して、日ごろの

思いや悩みを共有する場ともなっている。今回は高校奨学生81人、保護者76人のほか同伴の家族26人の計75家族183人が参加。昨年に比べ、5家族（17人）増えた。高奨生（参加者81人）の参加率は33・3％で、3人に1人が参加した。地区ごとの開催をやめ、全国開催となった2012年度以降のつどいでは最高の参加率だった。

開会にあたって石橋健一会長は、「学生寮（心塾）の運営をはじめ、家賃補助、語学検定料や資格取得費用の補助、浪人生支援など保護者の方からの要望で実現した施策が数多くある。事業の改善・改革が進むケースもあり、この機会にいろんな意見やアイデアを寄せ

てほしい」と呼びかけた。続いて奨学生、保護者による講演が行われ、東京心塾生の村上敦基さん（22）＝東京都立大3年＝と、奈良県でエスニックサロンを営む酒井咲子さん（50）が、交通事故で父親・夫を亡くした経験を振り返り、それぞれの立場から参加者に語りかけた。（2面に村上さん、酒井さんの講演要旨を掲載しています）



全国から75家族183人が参加した「高校奨学生と保護者のつどい」。石橋健一会長（右端）は開会の挨拶で「皆さんの意見や要望が事業の改善・改革につながる。積極的に発言してください」と呼びかけた。（8月16日、東京都港区区内で）

講演後は東京、関西の学生寮「心塾」の紹介VTRを視聴した後、保護者は計9グループに分かれて懇談会が行われた。



懇談会には石橋会長ら役職員のほか現役の心塾生も同席し写真（右）

「高校卒業後も交流の場を」

参加者から今後の要望も

役職員のほか現役の心塾生も同席し写真（右）

「つどい」の初日終了後に実施したアンケート（回収率98％）では「どこでもよかった」「よかった」と答えた保護者が97％、高奨生で92％以上、そのうち保護者の7割、高奨生の6割は「とてもよかった」と答えた。



オリジナルゲームを通じて一体感が生まれる

「つどい」の初日終了後に実施したアンケート（回収率98％）では「どこでもよかった」「よかった」と答えた保護者が97％、高奨生で92％以上、そのうち保護者の7割、高奨生の6割は「とてもよかった」と答えた。

心塾関西寮 寮費を値下げ

東京寮と同額 月額1万円に

交通遺児育英会は関西圏で運営する学生寮「心塾関西寮」の月額寮費を東京寮（東京都日野市）と同額の1万円とすることを決めた。9月22日に開かれた第2回臨時理事会で報告し、了承された。値下げは今年4月に遡って実施される。

は当会が土地・建物を所有する東京寮と異なり、民間施設を借り上げる形で運営している。このため、居室・設備によって寮費に1万5000～2万5000円とばらつきがあり、東京寮との差額解消が課題となっていた。

家賃補助なども支援拡大を検討

また、第6次長期事業

計画に掲げる修学支援事業の拡充方針に基づき、さらに近年の物価高騰による家計への影響を考慮し、補助制度の拡充を具体化させる見通し。進学などに伴って一人暮らしを始める奨学生の「家賃補助制度（現行・月額1万5000円）や、自動車運転免許取得費用補助制度（現行は費用の半額を補助）上限15万円）について補助の増額を検討している。

今夏、海外語学研修に参加した高校奨学生27人が8月9日、米国から帰国した。一行は3週間の日程で現地家庭にホームステイしながら語学学校に通い、写真、社会見学やアクティビティなどの課外活動を通じて米国の歴史・文化にも親しんだ。（3面に研修レポートを掲載）

米国語学研修終了 高校生27人が帰国



奨学生募集中

交通遺児育英会人事全国知事会会長の交代に伴う顧問の選任を行った。（9月22日付）

▽新任顧問 阿部守一
▽退任顧問 村井嘉浩

ロシアのウクライナ侵攻 国連人権理事会の調査委が「ジェノサイド（大量虐殺）」を認定したイスラエルによるガザ攻撃……強権的な指導者の「やりたいうようにやる」がまかり通る。武力は伴わないが、強引な関税交渉の米国も同じ範疇だろうか▼秩序や合意形成とは程遠い世界で、未来に少し希望がわくニュースを目にした。4年前にパリ市で導入された「市民議会」。同志社大の吉田徹教授によれば、議員は無作為に抽出された住民100人。10代もいれば外国人もいて、市長の示す議題を討議したり、既存の市議会に独自提案も行う▼市民議員らは市長、市議会議員、市職員らとも討論を重ねて具体策を導く。既にホームレス支援や緑化計画などに政策として採用されているといい、市民議会の提案を実現できない場合、市議会は説明責任を負うという。記事見出し通りの「くじ引き民主主義」である（9月18日付「毎日新聞」）▼異なる意見や入り組んだ利害を調整しつつ最適解を探る――そんな政治の役割は必ずしも十分に機能していないのが現実だ。選挙で選ばれた議会を補完する制度としてはなかなか魅力的に映る「くじ引き」。投票率の低水準が指摘される若い世代にどう映るだろうか。

「高校奨学生と保護者のつどい」講演

東京都立大法学部3年 村上敦基さん（心塾東京寮）



中1の冬、追突事故で父親を亡くしました。以降、父の死を早く忘れようとするかのように勉強に打ち込みました。家族を支えられるようにいい高校へ、いい大学へ行こう、と。そんな折、最愛の祖父が亡くなりました。中2の時でした。立って続けに直面した家族の死に呆然としました。

小さい頃は「崩し将棋」をして遊び、わざと負けていた優しい祖父が大好きでした。その祖父が亡くなり、これからどうやって生きていけばいいのか、わからなくなりそうでした。何とか過ぎてはきものの、今思えば、父の死の時と同じように祖父の死にも十分向き合うことをしなかったような気がします。

高校入学後はコロナ禍が猛威を振るい、すっかり心が疲れてしまいました。以後、自分の気持ちに正直に向き合おうと決めると、高3の担任だった先生がとことん付き合ってくれました。父の死、祖父の死に十分向き合えなかったこと、コロナ禍での生活が辛かったこと、正直に打ち明けた気持ちを先生は全て受け止めてくれたのです。悲しい時に悲しいねと背中をさすってくれること、嬉しい時は私以上に喜んでくれること、そんな姿を見て、私もこんなふうになんか生きてみたいと思いました。

大学の法学部を選んだのは将来資格や能力を生かして自営できるように、と考えたからです。資格を得るため、今は法科大学院進学に向けて勉強しています。私は、心で泣いている人に明るい未来を示せるような人間になりたいです。法律の専門知識を武器に困っている人の力になりたい。そんなふうに考えています。

私の経験から伝えたいことは二つです。一つは悲しい時には悲しさから目を背けず、その気持ちに向き合うこと。涙を流すこと。辛いから人に頼りたいと思うことは自然な感情です。同様に嬉しい時、幸せな時はその気持ちを噛みしめること。好きなものを好きとすることが大切です。

二つ目は自分の思いを人に伝えることです。伝えられた相手はどう思ったのか、耳を傾けてみてください。人は独りでは生きられません。今の自分があるのは、これまでかかわってきた数えきれない人々の支えのおかげです。きょうの「つどい」は、そういう場です。自分の経験を素直に話し、人の話を傾けてみてください。そして、自分はこう思うと伝えてみてください。自分の何げない気持ちが人を救うことだってあるのです。

自分に向き合い思い伝えて

ソシオエステティシャン 酒井咲子さん（奈良県橿原市）



2004年2月17日。幸せな日常が一瞬で壊れました。3日前のバレンタインデーには、息子を間にチョコレートケーキを食べながら、「何げないことやけど、ほんとに幸せやね」と笑った夫の嬉しそうな顔が今も目に浮かびます。

その前日、出張のため車で出かけた夫を、いつものように車が見えなくなるまで見送りました。出張の間、私と息子は実家に帰っていたのですが、翌朝、夫の会社の社長から電話が入りました。ご主人が事故に遭った。一緒に行ってほしいので迎えに行く。その時は、亡くなっているなんて想像すらできませんでした。病院に着くと、案内されたのは霊安室でした。息子を抱いて霊安室の扉を見たところで、私の記憶は途切れました。

次に覚えているのは、亡くなった夫の顔を息子が嬉しうになでている様子です。亡くなったことを知らない、小さな手で。夫はまだ温かく、きれいな顔のまま、まるで眠っているようでした。現実を受け入れられず、感情が渦巻く中、「安心して。この子は大丈夫。ちゃんと育てるから」と、なぜか冷静に夫に心の中で話しかけていました。

けれど、夫と過ごした家で過ぐすのは本当に辛くて、毎日泣いていました。息子が泣いてもどこか遠くで聞こえているようで、授乳の時と布団の中で抱きしめている時だけが穏やかな私でいられました。翌年アパートを借りて息子と暮らし始めましたが、当時の記憶はほとんどなく、体調も思わしくありませんでした。同じ年頃の親子を見るのが辛くて、スーパーや公園に行ったり、雑踏に足を踏み入れることができません。幸せそうな家族を見ると、悲しくて。私たち以外の全ての家族が幸せそうに見えました。

息子の成長が唯一の希望であり、癒やしでしたが、まだ自分自身の感情のコントロールが難しく、息子にひどく怒ってしまったこともありまし。今でもふと思いついて後悔することがあります。もっとお母さんらしい、お母さん受け入れられず、感情が渦巻く中、「安心して。この子は大丈夫。ちゃんと育てるから」と、なぜか冷静に夫に心の中で話しかけていました。

けれど、夫と過ごした家で過ぐすのは本当に辛くて、毎日泣いていました。息子が泣いてもどこか遠くで聞こえているようで、授乳の時と布団の中で抱きしめている時だけが穏やかな私でいられました。翌年アパートを借りて息子と暮らし始めましたが、当時の記憶はほとんどなく、体調も思わしくありませんでした。同じ年頃の親子を見るのが辛くて、スーパーや公園に行ったり、雑踏に足を踏み入れることができません。幸せそうな家族を見ると、悲しくて。私たち以外の全ての家族が幸せそうに見えました。

息子の成長が唯一の希望であり、癒やしでしたが、まだ自分自身の感情のコントロールが難しく、息子にひどく怒ってしまったこともありまし。今でもふと思いついて後悔することがあります。もっとお母さんらしい、お母さん受け入れられず、感情が渦巻く中、「安心して。この子は大丈夫。ちゃんと育てるから」と、なぜか冷静に夫に心の中で話しかけていました。

その頃の私は夫との死別の闇から抜けられず、自分が生きているだけで精一杯でした。その後、息子が中学受験に向けて塾に通い始めたころから、私自身も仕事に励むようになり、少しずつ状況が変わっていったように思います。何より多くの人たちの支えがありました。私の両親、弟、夫の両親、姉夫婦、そして友人や近所の方々、学校関係者、多くの人たちに助けられました。夫の両親は我が子を亡くして一番辛い立場なのに、常に私を気遣ってくれました。何事にも「有言実行」の忠告の強さを持った息子は、今は親元を離れて心塾東京寮で学生生活を送っています。帰省する度に成長を感じ、ひそかに「立派に育ってくれたよ」と夫に報告しています。今では大切な人生の同志であり、何より私の誇りです。

充実した高校生活 私を成長させてくれた「三つの挑戦」

2年 村田友妃

私は昨年1年間、とても充実した生活を送ることができました。頑張ったことを三つ書きます。

まず一つ目は、学級委員長に立候補したこと。学級委員長に立候補したことで、その仕事に向かい合うことは、私にとって勇気が必要なことでした。皆の前で立つて話すこと、皆の中心になって皆をまとめること、どれもこれも私にとって荷が重かったのです。

けれど学級委員長になることで、たくさんのいい経験ができました。コミュニケーション能力が

上がって、人前で話すことも慣れて、どんな状況でも誰とでもコミュニケーションを取る事ができるようになりました。学級委員長に挑戦した自分を誇りに思います。二つ目はボランティア活動です。地元にある障害者施設で障害を持った子どもたちと遊びました。私は自分に自信を持っていないことが多かったのですが、自分の可能性を信じて」というテーマで大勢の人の前で発表しました。

さい子どもたちとの関わり方を学ぶことができてうれしかったです。そして三つ目は、英語のスピーチコンテストです。自治体主催したコンテストに参加し、「自分の可能性を信じて」というテーマで発表しました。

私は自分に自信を持っていないことが多かったのですが、自分の可能性を信じて自信を少し持つだけで人生が大きく変わることを皆に伝えたくて、ス

結果は第2位を取ることができ、幸せでした。これら三つの挑戦が、私の高校生活を充実させてくれて、そして私を成長させてくれました。（長野県）

高校生の声



声

度楽しく生きている。多分自由だからだろう。心配ごとは多くある。解決したり、しなかったり。解決したいけど話したことを忘れることができない。そして、これらが日常がある。

手助けあってこそ日常「何となくの自由」って大事だ！

2年 T・M

何となくの日常って大事だと思う。

毎日起きて眠気と闘い、そして負ける。朝ごはんを食べて、弁当のことを考えながら学校に行く。そんな毎日。ずっと変わっているのと同じに見える毎日。友だちはそこそこできたと思う。話せる人はたくさんいる。

間違はいっぱいした。入学式の時靴を間違えて、学校ではよく何かで間違える。でも、ある程

入学的の時靴を間違えて、学校ではよく何かで間違える。でも、ある程

入学的の時靴を間違えて、学校ではよく何かで間違える。でも、ある程

入学的の時靴を間違えて、学校ではよく何かで間違える。でも、ある程

入学的の時靴を間違えて、学校ではよく何かで間違える。でも、ある程

「痛みと悲しみ」知ればこそ

入学的の時靴を間違えて、学校ではよく何かで間違える。でも、ある程

（大阪府）

2025海外語学研修報告

【前編】



普段とは全く違う景色や言語、食事に触れ、知的好奇心を刺激する驚きと喜びに満ちたものでした。自然あふれる街、初めて食べる不思議な味のお菓子、陽気な英語の響き。見るもの、聞くもの、触れるものが緊張をほぐし、全てが学びの対象になりました。

特に印象的だったのは、ホストファミリーとの時間です。彼らは私を本当の家族のように迎え入れてくれ、日常の他愛もない会話から生きた英語と文化を学ぶ機会となりました。私が一度も日本を恋しいと思わなかったのは、彼らの温かい存在があったからだと思えます。

授業では、日本ではあまり重視されない発音の修正を丁寧に指導していただき、日本語と英語では声の出し方が根本的に違うことを肌で感じられました。また、交通遺児の仲間と日本の家族の話とを共有することで、それぞれの異なる経験が今に繋がっていることを知る事ができました。



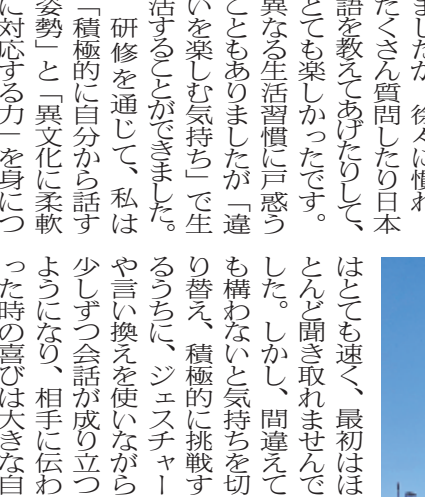
最も印象的だったのは、自分の意見をはっきり伝えることが当たり前、という文化でした。日本では相手に配慮して言葉を濁すことが多いのに対し、米国では積極的に意見を発信し、異なる考えを尊重しあう雰囲気がありました。多くの人と話すうちに、英語を正しく使えているかという不安が、もっと話したいという願望に変わったことに成長を感じました。



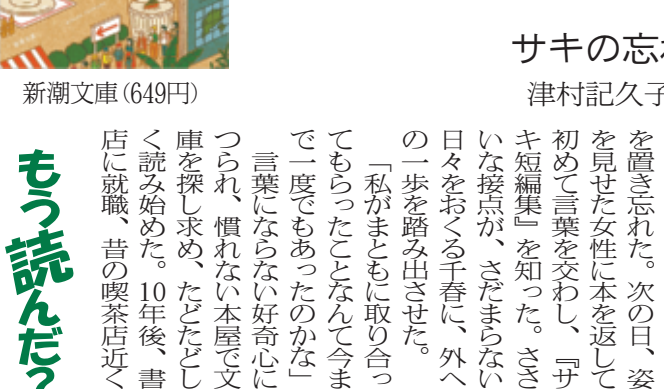
ホームステイ先では英語だけでなく、米国の文化そのものを学びました。最初は夕食時の会話についていけず、ただ笑っているだけの日もありましたが、徐々に慣れ、たくさん質問したり日本語を教えてあげたりして、とても楽しかったです。異なる生活習慣に戸惑うこともありましたが、「違いを楽しむ気持ち」で生活することができました。研修を通じて、私は「積極的に自分から話す姿勢」と「異文化に柔軟に対応する力」を身につけることができました。

最も印象的だったのは、ドジャースの試合観戦です。球場全体の熱気と一体感は想像以上で、大谷選手がホームランを放った瞬間は私も思わず立ち上がり、声を上げ、周囲と喜びを分かち合いました。国や言語の違いを超えて一つになれる体験は、大変だったのは日常会話です。授業で習った表現が実際に使え、理解できても、現地の人々が話すスピード

研修期間を振り返ると、数え切れないほどの学びと、貴重な体験に恵まれた時間となりました。大変だったのは日常会話です。授業で習った表現が実際に使え、理解できても、現地の人々が話すスピード



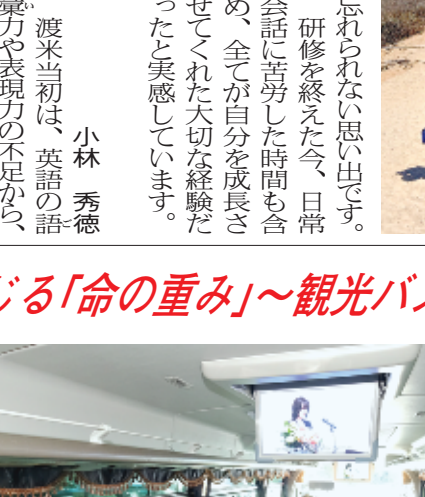
研修期間を振り返ると、数え切れないほどの学びと、貴重な体験に恵まれた時間となりました。大変だったのは日常会話です。授業で習った表現が実際に使え、理解できても、現地の人々が話すスピード



今回の研修は私にとって自己変革の契機となり、言葉の不自由さを乗り越えて、積極的に他者と関わることの重要性を学びました。そして異文化の中で生活することで、自国の文化を客観的に見つめ直す機会となりました。語学研修生の帰国リポートの一部を要約して今号と次号で紹介いたします。

最も印象に残ったのは、渡米当初は、英語の語彙力や表現力の不足から、細かなニュアンスを伝えられず、もどかしさを感じました。しかし、ホストファミリーはつたない英語にも根気よく耳を傾けてくれて積極的に会話をするように促してくれましたので、安心して英語で話そうという気になりました。こうした日常や課外活動を通じて、教科書にはない実践的な英語を身につけることができた気がします。言語は単なるツールではなく、人と人との繋がりを築く手段なのだと思えました。

最も印象に残ったのは、渡米当初は、英語の語彙力や表現力の不足から、細かなニュアンスを伝えられず、もどかしさを感じました。しかし、ホストファミリーはつたない英語にも根気よく耳を傾けてくれて積極的に会話をするように促してくれましたので、安心して英語で話そうという気になりました。こうした日常や課外活動を通じて、教科書にはない実践的な英語を身につけることができた気がします。言語は単なるツールではなく、人と人との繋がりを築く手段なのだと思えました。



最も印象に残ったのは、渡米当初は、英語の語彙力や表現力の不足から、細かなニュアンスを伝えられず、もどかしさを感じました。しかし、ホストファミリーはつたない英語にも根気よく耳を傾けてくれて積極的に会話をするように促してくれましたので、安心して英語で話そうという気になりました。こうした日常や課外活動を通じて、教科書にはない実践的な英語を身につけることができた気がします。言語は単なるツールではなく、人と人との繋がりを築く手段なのだと思えました。

心塾恒例の芸術鑑賞会が9月に開かれ、東京寮生が都内で公演中の劇団四季「アナと雪の女王」を鑑賞した。

福岡市東区の「海の中道大橋」で2006年、飲酒運転の車に追突されて幼いきょうだい3人が亡くなった交通事故から19年となった8月25日、県などが主催する飲酒運転撲滅へ決意新た 福岡で「8・25」県民大会

職場で感じる「命の重み」～観光バスで出張講演



全国企業・団体などを対象とした交通遺児育英会の無料出張講演が大型観光バスの車内で開かれた＝写真。観光バス、タクシー事業などを手がける東関東交通（千葉県成田市）のドライバーが、日ごろの職場となるバス車内のモニター画面を通じて講演DVDを視聴。「ハンドルの重みは命の重み」と訴える遺族の声に耳を傾けた。（9月2日、同社で）

サキの忘れ物

津村記久子 著

新潮文庫 (649円)

もう読んだ？

短編9編を収める。40頁足らずの表題作が極め付き。千春は、「興味の持てることも楽しかった」高校をやめた。病院付きの喫茶店でバイトする18歳。閉店前に来店して文庫本を開く常連の女性客が、本を置き忘れた。次の日、姿を見せた女性に本を返して初めて言葉を交わし、『サキ短編集』を知った。ささやかな接点で、さだまらない日々をおくる千春に、外への一歩を踏み出させた。「私がまともに取り合ったもたらったことなんて今まで一度でもあったのかな」言葉にならない好奇心につられ、慣れない本屋で文庫を探し求め、たどたどしく読み始めた。10年後、書店に就職、昔の喫茶店近く

今泉 哲雄 心塾関西寮読書感想文講師

「サキの忘れ物」は、半世紀ぶりに来日し、無料展示される「あれ」を見る12時間の行列。「私」は、列内の世情に当てられ、あと2時間で回れ右、列を外れた。結局、「あれ」の正体不明のまま肩透かし。作者の企みに弄ばれ、正統、破調両様の物語にはまる。本が苦手の千春も通った道で、サキって誰？

千春の歩み導く文庫本

朝の温度

成安造形大学4年 海野 音芽

短編9編を収める。40頁足らずの表題作が極め付き。千春は、「興味の持てることも楽しかった」高校をやめた。病院付きの喫茶店でバイトする18歳。閉店前に来店して文庫本を開く常連の女性客が、本を置き忘れた。次の日、姿を見せた女性に本を返して初めて言葉を交わし、『サキ短編集』を知った。ささやかな接点で、さだまらない日々をおくる千春に、外への一歩を踏み出させた。「私がまともに取り合ったもたらったことなんて今まで一度でもあったのかな」言葉にならない好奇心につられ、慣れない本屋で文庫を探し求め、たどたどしく読み始めた。10年後、書店に就職、昔の喫茶店近く

夢まっしぐら

すぎやま ひな か
杉山 緋南佳 さん

高津理容美容専門学校 美容科2年（大阪市）



共にファッションショーを楽しむ催しに参加しました。担当する男の子の好みを聞き、髪を整えてメイクして。小さなハート形のシールを顔に貼ってあげると、とても喜んでもらえました。自信になるし、美容師の力でいろんな人を笑顔にしたいです」

――将来の目標は？

「海外のサロンで働きたいです。日本人の美容技術は評価が高く、外国でも自分の技術を知ってもらいたいし、自分の知らない技術を学びたい。そのために、まずはお金をためて留学したいです」

小 学生になったばかりの頃、母（51）は交通事故に遭い、障害を負った。卒業制作や国家試験に向けて多忙な中、日々の喜怒哀楽を素直に話せる頼もしい存在だ。

人での店を切り盛りして、素直に『かっこいい』と思います」――身近な大先輩ですね。

「技術も、めっちゃすごいです。とくにシャンプーが上手でとても気持ちいい。なんとか祖母の技を身に付けたいです。帰省の折に店を手伝うこともあって、お客さんのおしゃべりが楽しくて。私もいつか自分の店を持ちたいです」――学校生活は？

「朝礼後、9時から16時までが授業。終わると19時頃まで自主練習です。大会などがあると朝練も加わって結構ハード。体力作りのため往復1時間半、歩いて通学しています」――厳しいぶん、成果は上がったのでは。

「まつエク（まつ毛エクス）――ですが、大会の練習中は心が折れそうな時もたくさんありました。もともと負けず嫌いな性格なんですけど、悔しくて母に電話すると『あきらめてたら終わりよ』『負けるな』と励まされ、気持ちを切り替えられたように思います。――厳しいも優しい母です」

「障害のある人、ない人が

「障害のある人、ない人が

「障害のある人、ない人が

「障害のある人、ない人が

「障害のある人、ない人が

「障害のある人、ない人が

「障害のある人、ない人が

「障害のある人、ない人が

「障害のある人、ない人が

「障害のある人、ない人が

「障害のある人、ない人が

「障害のある人、ない人が

「障害のある人、ない人が

「障害のある人、ない人が

「障害のある人、ない人が

「障害のある人、ない人が

「障害のある人、ない人が

「障害のある人、ない人が

「障害のある人、ない人が

「障害のある人、ない人が

「障害のある人、ない人が

「障害のある人、ない人が

「障害のある人、ない人が

「障害のある人、ない人が

美容師の力で世界の人を笑顔に

――高校では被服科で和洋裁などを学びましたね。

「美容師になるためにファッションをトータルで学びたいと思って。ショーに向けて友人の服を作ったり、今も役立っています」――早くから美容師を目指していたのですか。

「祖母が美容師なんです。中学卒業後、15歳で弟子入りして以来、今も現役です。一

「障害のある人、ない人が

全ては漫画家になるために

「自分の好きなように、好きなことをやってます」

漫画、デザイン、DJ（ディスクジョッキー）、家庭教師に塾講師……学業の傍ら、活動分野は実に多彩だ。芸術学科に学ぶ野澤清千歌さん（21）の目標はプロの漫画家。昨年の目録はプロの漫画家。昨年、売り込んだ作品が大手出版社の編集者の目に止まり、プロへのスタートラインに立った。幅広い活動から吸収する全てが創作につながる。

3年生になり、授業では自由に制作できる時間が増えた。「あらかじめテーマを与えられるという課題制作には強い方だと思っています。先生には『限られた範囲内では面白いものを出せる。でも自由なテーマで、となるとちょっと弱い』と言われて。自由にやる、ってむしろ難しい」

表現力を鍛え、創造する力を養うべく今年から始めたドローイングは既に100枚超。テーマは設定せず、ひたすら自分の思ったこと、感じたことを一枚の絵に落とし込む。

「描いては壁に貼っていく、その繰り返しです。自分の思いを表現してアウトプットすることが大事です」クリスチャン・マークレー（米）、ゲルハルト・リヒター（独）ら現代作家の作品に惹かれる。過去の作品を素材にして別次元の作品を生み出す面白さがあるという。B級映画も参考になる。例えば、アクションホラー『武器人間』（2013年）。『ぶっ飛

び具合が衝撃的。漫画の構想を練る上で、自分の中のブレイキもぶっ飛ばしてくれたい」

感性を磨いてくれるのがDJだ。即興のラップで技を競う「ラップバトル」に未経験ながら飛び入り参加し、百戦錬磨のラッパーと渡り合ったことも。経験を重ねるうちに会場の空気や客層に合わせて選曲を変える技量が養われ、「物語の強弱など、漫画の脚本作りに役立つ」という。

「ラップバトルは言葉操り、掛け合うので（漫画の）セリフに使う語彙が増える。バトルなので殺伐とした雰囲気かと思えば、終了後は意外に皆仲がいい。ラップの文化や価値観にも触れられて、どれも創作に生かせそうです」

高校は実家のある京都の進学校に進んだ。特進コースに在籍し、受験勉強中心の日々を送っていたが、「何か違う」と感じるように。校内の創作課題で入賞したりするうち、小学生の頃、手塚治虫「火の鳥」、藤子・F・不二雄「ドラえもん」などを読んで「漫画家になる」と決めた時の気持ちに再び火が付いた。

時には十数時間、ぶっ通しで漫画を描く日もあるが、自らに課しているのは毎日必ず線を一本引くこと。大学入学早々、今は亡き油彩画の教官に教わった上達の秘けつだ。「何かあっても毎日ペンを持つ。休むとペンを持つ感覚が戻るのに3日かかる。描く習慣が身に付きました」

卒業後は就職して、漫画を描きながら社会人としての経験を積み、プロを目指す。

12 年前に亡くなった父（享年44）は、地元で名の通ったDJだった。高校の同級生の父親に「息子さん？」と握手を求められたり、父が作った歌のモデルになった男性とは今も付き合いが続く。どうやら相当な「自由人」だったらしい父。生きざまが似てきたのか母（54）に（父と）同じことを言っていると、怒られることがあるとか。

「DJを始めたことで、『（父の）機材、残ってない？』と聞いた時はめちゃくちゃ怒られました。母はいろいろ苦労したんだと思います」

野澤 清千歌 さん

近畿大学 文芸学部芸術学科 3年





(公財) 交通遺児育英会
石橋 健一 会長

いしばし・けんいち 1942年生まれ。北大卒業後、日新製鋼（現日本製鉄）入社。96年、交通遺児育英会。専務理事、理事長等を経て、2023年より現職。



河北新報社
一力 雅彦 社長

いちりき・まさひこ 1960年生まれ。宮城県仙台市出身。86年、河北新報社入社。編集局長、代表取締役専務等を経て、2005年から現職。

宮城県多賀城市で飲酒運転の暴走車が高
校生の列に突っ込み、死者3人、負傷者15
人を出す大惨事となった20年前の5月22日。
宮城県はこの日を「飲酒運転根絶の日」と
定め、2014年には県、県警、河北新報
社の共同プロジェクト「みやぎ交通死亡事
故ゼロキャンペーン」が始まった。交通遺
児育英会も、キャンペーン賛同団体として
地域の交通安全啓発活動を後押ししている。
交通事故致死ゼロへ向けた取り組みや交通
遺児家庭への支援はどうあるべきなのか。
河北新報社の一力雅彦社長と石橋健一会長
が語り合った。

特別対談

ハンドルの重みは命の重み

社会全体で高めよう
「飲酒運転根絶」の機運

死亡事故ゼロへ絶え間ない啓発活動続ける

——交通遺児育英会が設立された経緯を。

石橋 高度成長期、モータリゼーションが進んで交通事故死が1万6000人を超えていた時代がありました。経済的な困窮を抱えながらも我が子の進学を望む親の声を背景に、1968（昭和43）年の国会決議を受ける形で翌年設立されたのが当会です。以来、5万8千人余りの奨学生に約584億円を支援（貸与・

給付）してきました。——交通環境も大きく変わった現在、地元メディアとして現状をどのようにとらえていますか。

一力 宮城県民が忘れてはならないのが20年前の事故です。多賀城市で5月22日早朝、飲酒運転の車が、ウォークラリーに出発した高校生の列に突っ込むという絶対にあつてはならない事故が起きました。友情を深める学校行事が一瞬

で凄惨な悪夢に変わってしまったのです。

県内の事故件数は減少傾向が続いている半面、昨年中の死亡事故は3件増の47件あり、高齢者が亡くなったケースが目立ちます。飲酒運転事故も39件あったほか、自転車、バイクの事故も増えており、車の安全装備が進化して事故件数は減ったものの、ドライバーの意識向上がより求められているのではないしょう

つ各種資格・検定試験の受験費用を給付しています。入試の受験料補助も上限を5万円から10万円に引き上げました。コロナ禍の際は計5回の緊急支援を行うなど社会情勢に応じた支援体制を整えています。

——貸与・給付事業のほかにも多様な支援がありますね。石橋 ええ。三つ目は奨学生の指導・育成です。毎夏、都内で行う「高校奨学生と保護者のつどい」、各地域ごと

を柱とする交通安全啓発活動です。昨年度は全国で計34回開催し、2500人に参加いただきました。

一力 事業の説明をうかがって、常に新しいことを、時代の状況に応じて必要なことをされていると感じます。支援の方法も常に進化されている。やはり交通遺児、保護者のニーズを丁寧に聞き取るこ

とが大切だと思いました。そして、実際にそれを実践されている。設立から半世紀以上

にわたって交通遺児を支援し、交通安全を訴える活動に心から敬意を表したいと思います。石橋 ありがとうございます。

——今後の交通安全啓発活動についての考えを。

一力 報道機関として交通安全啓発活動をはじめ、交通安全キャンペーンを展開しています。先ほど事故件数の減少傾向に触れましたが、一方で2013年に交通事故死は対前年比で24人も増え、それまで7年連続で死者数が減っていたのが増加に転じました。

警察によると「漫然と運転」していたケースが多かったそうです。こうした事態を受けて翌14年に県、県警、河北新報社で交通安全連携協定を結び、賛同企業・団体とともに「みやぎ交通死亡事故ゼロキャンペーン」として広く交通安全に関わる啓発活動を行っています。河北新報でも年6回、特集紙面を制作するなど、分

かりやすく丁寧な情報提供を心がけています。こうした活動は今後も継続します。石橋 啓発活動について補足すると、無料出張講演では奨学生、保護者の講演が中心になります。講演後に寄せられた感想を見ても、当事者の事故被害体験談は安全運転意識を高めるのに非常に効果的です。あるお母さんが言われた、「ハンドルの重みは命の重み」との言葉はメッセージとしてとても伝わりやすく、ドライバーの皆さんはこの言葉を忘れずにハンドルを握ってほしいと思います。

五つの事業を核に社会情勢に応じた支援を

か。悲惨な事故をなくすべく、決意を新たにしている取り組みだと思っています。

——交通遺児育英会の事業についてご説明ください。

石橋 大きく分けて五つの事業で成り立っています。核になるのは全奨学生に対する奨学金の無利子貸与（一部給付）です。二つ目は修学支援金制度。家賃補助や運転免許の取得費補助に加え、今春からは語学をはじめ就職に役立

た海外語学研修を実施しています。こうした事業は奨学生、保護者間の交流を深めると同時に、各家庭から要望を聞く貴重な機会にもなっています。さらに四番目の柱として学生寮の運営があります。東京には開塾48年目を迎えた学生寮「心塾」、関西圏にも借り上げ方式の寮を用意しています。五番目は、無料出張講演

——いわゆるヤングケアラーの支援を検討中、とうかがいました。交通遺児家庭の実情をお聞かせください。

石橋 ヤングケアラーは近年クローズアップされるようになった社会問題ですが、交通遺児家庭においても相当数存在するはず、と考えていま

が交通ルール周知徹底はまだ足りていないと感じています。電動キックボードなど新たな交通手段でも、ルールをよく知らないままの違反行為が続いています。「知らなかったでは済まされない」のが交通ルール。私自身も学びながら、そのための報道やキャンペーンを続けていきます。

あしながおじさんの広場



【7月】
社会の大きなうねりの中で、自身の目標を見失わず学び続けてほしいと願っています。

【8月】
あおり運転や飲酒運転など悪質な運転が少なくなることを願っています。

【9月】
奨学生のためにご活用いただけますと幸いです。

【10月】
湿度の高い日が続きます。皆さまお身体お大事になさってください。

【11月】
少しでもお役に立てれば幸いです。

【12月】
茨城県社会福祉協議会は、来春高校などを卒業する予定の交通遺児を対象に、奨励金30万円を贈呈する。

【1月】
同協議会は企業・団体、個人からの寄付金を原資に交通遺児福祉基金を設け、遺児支援に役立てている。

【2月】
対象者は、茨城県内の居住者で県

株式会社CFN様

何が正しいことを考え、行動する組織を目指して

株式会社CFN様は、中四国9県と兵庫県を中心とした自動車販売組織です。

地域に密着した自動車販売、整備、保険など質の高いサービスと安心を提供されています。また組織力を生かして加盟店を支援する

ご支援に感謝いたします

育英会から

を知り、お力になれば時期の疲労運転にならぬと思います。寄付させていただき、おなかいっぱいご飯が食べられない、望む教育が受けられないという子どもたちを皆で

目標を見失わぬよう学び続けて

道路交通法を守って安全運転を

バス事業会社勤務し、支援しなければ、と強く思っています。社内の安全教育の一環として貴会の講演を拝聴する機会があり、

茨城県社会福祉協議会は、来春高校などを卒業する予定の交通遺児を対象に、奨励金30万円を贈呈する。

同協議会は企業・団体、個人からの寄付金を原資に交通遺児福祉基金を設け、遺児支援に役立てている。

教えて！交通事故Q&A

（公財）日弁連交通事故相談センター 18

Q 大型トラックの運転手をしています。先日、休憩のため「道の駅」に立ち寄ったところ、駐車場が混んでいたため誘導員から臨時のスペースに駐車するよう指示され、誘導に従ってトラックの後部をぶつけてしまいました。私の運転ミスではありますが、誘導が不適切であったとして誘導員にもトラックの修理代の一部を負担してもらうことは可能でしょうか。（神奈川県・48歳男性）

不適切な誘導で車両が破損 誘導員に賠償請求できる？

A 道路交通法上、公道を走行する際の警察官や交通巡視員の指示に従う義務はありますが（同法6条、7条、114条の4）、それ以外の者の指示に従う義務はありません。裁判例においても「（誘導員）の合図には、道路交通法上何ら格別の権限が与えられたものではなく、これに従うか否かは最終的には運転者の規範意識によらざるを得ない」とされています。

よって、誘導員の指示や合図は、運転者が車を安全に運転するための判断材料の一つに過ぎないという点になります。この点から、誘導員の指示に従って運転した結果、事故が生じたという場合であっても、運転者が責任を完全に免れることはできないと考えます。

もっとも、工事現場などでは誘導員の配置が義務付けられており、誘導員が誘導している場合、通常、車は重要であり、それを信頼して車を後退させた運転者に対し、適切な誘導をしなかった誘導員にも一定の過失があるといえます。そのため、誘導員に損害賠償請求をすることは可能と考えます。ただし、事故の主たる原因は運転ミスであると認められ、低い割合にとどまるものと予想されます。（第一東京弁護士会・山崎勇人）

日弁連交通事故相談センター無料相談ダイヤル

0120-0783-25

月～金（祝日除く）10時～19時（相談・通話無料、10分程度）

ホームページ <https://n-tacc.or.jp/>

出張講演を聴いて

事故の瞬間から人生が全く違う方向へ進みだすのだと感じた。（残された子は）助けがなければ、夢を途中であきらめなければならなかっただろうと、つらくなった。

（事故後に）残された家族がとても苦勞することにショックを受けた。

身内の事故死という事実を受け入れるだけでも大変なのに、さらに追い打ちをかけるような試練が続くのは、ただただ地獄でしかないと思いました。誰も代わってほしくないし、守ってほしくないのだ、と。

困ったときは互いに助け合い、家族を大切にしなければと思った。

交通事故の後の話や、家族の話を遺族はずっと心の中に交通事故が残っている。事故によるメンタル的な被害についても、これからの教習で指導したいと思いました。（愛媛県警運転免許課のアンケートより）

子を持つ親として非常に心に響いた。日々を当たり前に思うことなく、大切に生きていきたい。

交通事故の怖さを再認識しました。してしまつことを常に自分のこととして考え、安全運転を心がけたい。

つらい時こそ手を差しのべられる人でありたいと思いました。

家族を守ることと他の家庭の家族を守ることは同じ意味だと感じた。

「慣れ」の怖さを痛感した。通りに慣れた道だから大丈夫、という慢心を捨てなければいけないと感じた。

講演の申し込みを受け付けています

聴ける機会はないため、とても考えさせられる内容だった。

事故は一瞬でも、遺族はずっとその記憶から逃れることができない。つらい気持ちが続いてきました。

教習業務を通じ、教習生にも事故後の遺族の悲しみを伝えて「事故ゼロ」を目指したいと思っています。

被害者と加害者、双方の支援が必要だと思った。

教習指導員、技能検定員として一人でも多くの優良初心運転者の育成に全力を尽くします。

遺族はずっと心の中に交通事故が残っている。事故によるメンタル的な被害についても、これからの教習で指導したいと思いました。（愛媛県警運転免許課のアンケートより）

人ごとと済ませずに、きょうの講演のことを家族に伝えたい。

加害者、被害者ともに人生が一変してしまつことを常に自分のこととして考え、安全運転を心がけたい。

車での移動が多い職種のため、人ごとではないと思いました。

被害者目線で聴いていたが、自分が加害者になる可能性もあり得ると思った。さらに気を付けてハンドルを握りたい。（東京、大阪・住商セメント様のアンケートより）